

五戸総合病院での研修を終えて

平成 30 年 12 月 研修医
大阪市立大学医学附属病院
初期臨床研修医 北川 大貴

私は 1 カ月間、五戸総合病院の内科で研修させていただきました。その中で「高齢者医療においてどのようなことを考えるべきか、またそのような地域に根差す病院の必要性」について非常に深く考えさせられました。

五戸総合病院は今までに勤務してきた病院と比較し、ご高齢の患者様の割合が高い地域に根差した病院でした。その中でご高齢の患者様ならではの問題があることに気づかされました。具体的には、倉石診療所という五戸総合病院からは車で少し離れた診療所にて主に薬をもらいにくる患者様の診療を担当させていただきました。そこは五戸総合病院より設備が乏しく血液検査のみしかできない上、検査結果もすぐには分からないというような診療所でした。その診療所は 2 週間に 1 度しか診療を行っていないのにも関わらず多くの患者様がやってきます。その理由の一つに、ご高齢で身寄りがいないために設備の整った五戸総合病院まで行く手段や体力がない、というものがありませんでした。そしてそのような患者様にとっては、2 週間に 1 度あるいは 4 週間に 1 度病院に来ること自体が心の支えになっていたり、リハビリになっていたりしました。精神的にも肉体的にも必要とされている本当に大切な診療所です。

大阪府では比較的多くの総合病院、診療所が開設しております。また交通機関も比較的発達しており、よほどの理由がない限りは診療を受けることができます。しかしながら総合病院、診療所が少ない地域では「高齢である」ということが原因で、病院に来ることが困難であり、診療を受けること自体が困難な患者様がたくさんいらっしゃいます。今回研修させていただいた倉石診療所のような病院は、そのような患者様にとっては必要不可欠な病院です。自分達の暮らしている地域の医療環境がいかにかまれているかということを実感させられました。

これは診療所単位の話です。総合病院ともなるとさらに患者様からはより必要とされています。五戸総合病院は地域の患者様の精神的かつ肉体的に必要な不可欠な病院でした。総合病院であるため急性期の非常に水準の高い医療を受けるというのはもちろんのこと、医療的介護が必要な慢性期の患者様も受け入れる、と非常に多岐に渡って診療されている、その地域の患者様にとっては無くてはならないような病院でありました。このような病院がなければその地域の患者様は医療を受けること

ができず一体どうなるのか、ということを経々思っておりました。

ご高齢の患者様が多い地域の医療は他にも多くの問題を抱えております。患者様が退院される際に社会的背景を鑑みないといけないということです。元気な一人暮らしのおばあちゃんが重篤な疾患で救急搬送された際に、急性期を脱したからといってそのまま自宅に帰してはなりません。また同じようなことが起こった時のために社会的フォローアップをしなければなりません。ご高齢の患者様の割合が多い今回の研修ではその方の社会的背景をより慎重に深く考える機会となりました。

今回、ご高齢の患者様にとっては病院にくること自体が負担になるということや、その方の社会背景を考えながら医療に携わらなければならないということを実感させられました。今までは高度な医療を提供することのみに躍起になっておりましたが、それはもちろんのこと、その地域にとって必要な包括的医療を提供しなければならないと心底考えさせられました。

今回大変お世話になりました院長の安藤先生をはじめ、指導医の新井田先生、同じ内科の佐藤先生、また非常に熱心に指導して下さい休日の日にもお世話になった小林先生には本当に感謝しております。医療に対する視野が広がった上に、内視鏡や腹部超音波検査、中心静脈カテーテル挿入などの手技もたくさん学ぶことができました。諸先生方、またコメディカルの方に非常にもお世話になり大変有意義な研修となりました。今回の研修で学んだことはこれからの医師として精進努力していく上で非常に大切なことだと愚行しております。大変お世話になりました。本当にありがとうございました。